

学校だより

第120号

令和7年3月1日

札幌東豊高等学校

「強い意志とやさしさ」

校長 駒井 信 和



第40回卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様におかれましては、これまでの苦労とお子様を逞しく育てられましたことに、敬意を表するとともに心からお祝い申し上げます。

皆さんが入学した年は、新型コロナウイルス感染症による影響を受け、通常の高校生活とは全く異なっていました。コロナによる生活が3年目となり、出口の見えない制限された生活に多くの不安を抱えた中での1年目でした。2年次は5月8日に新型コロナウイルスが5類へ移行し、生活制限が緩和され、多くの行事ができるようになり、少しずつ本来の学校生活に近づいてき

ました。そして、3年次では、多くの場面で本来の生活を取り戻していききました。

さて、令和6年度は大谷翔平選手が米大リーグ初「50・50」、パリ五輪で日本は海外最多メダル45個などスポーツ界での明るい話題が多くありました。その反面、相次ぐ闇バイト強盗、夏の平均気温が過去最高タイの猛暑など暗い話題もありました。そのような中、12月10日ノルウェー・オスロにおいてノーベル平和賞授賞式が行われ、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）が同賞を受賞されました。長年にわたる核兵器の廃絶や被爆の実相に対する理解の促進に取り組んでこられた日本被団協が、このような荣誉ある賞を受けられたことは、極めて意義深いことです。世界で唯一の被爆国である我が国が核のない平和な世界のために先導することが大切であると強く感じました。

この1年を振り返っても多くの出来事がありました。それを他人事にせず

一人一人が考えることが変化の激しい社会において生き抜くことができる力となります。

学校生活においては、合同チームの硬式野球部が活躍し全校応援を実施しました。準備期間が短い中ではありましたが、応援団長の今藤 蓮さんを中心にみんなの力で一体となった素晴らしい応援は「全校応援を実施して良かった!」「生徒にとって大きな思い出になった」と感じております。また、学校祭では「青春謳歌」をテーマに伝統の風あげ、各種展示、生徒会企画、PTA模擬店などコロナ前の学校祭に近づいたことは、生徒会役員を中心に試行錯誤しながら企画・運営に取り組んだ努力の成果であると思います。

さて、本校を卒業する皆さんに次の言葉を贈ります。それは「強い意志とやさしい心」です。この言葉は部員が200人集まる都立高校野球部監督であった、故 佐藤道輔監督の言葉です。佐藤先生は甲子園に出場したことはありませんが、「都立の星」と呼ばれた方で、「甲子園の心を求めて」の著者であり、私は若手の教員の頃に何度かお目に掛かりました。その佐藤先生が私にくれた言葉です。何事においても強い意志を持って取り組むことが大切であり、併せて相手を思いやるやさしい心が人として大切であることを教えてくださいました。

「中途半端だと愚痴が出る。いいかげんだと言い訳ばかり。」ではなく、「真剣だから知恵が出る。」そのような生き方をするためには、「強い意志とやさしい心」があってこそ成せることが

できます。

最後に、皆さんも是非「強い意志とやさしい心」を持って、人生を逞しく生きぬいていくことを期待し、餞（はなむけ）の言葉とします。



PTAだより

祝ご卒業

PTA会長 佐藤 美緒

本校のPTAを代表して、ごあいさつを申し上げます。

まず初めに、卒業生の皆さん、この特別な日を迎えられること、心よりお祝い申し上げます。皆さんは、高校生活の中で多くのことを学び、成長してきました。友人との絆、先生方からの教え、そして様々な経験が、これからの人生において大きな財産となることでしょう。

また、保護者の皆様、これまでのご支援とご協力に感謝申し上げます。お子様の成長を見守り、支えてこられたことは、決して容易なことではなかったと思います。その努力が実を結び、今日の卒業という素晴らしい成果を迎えられたことを、心から嬉しく思います。

卒業生の皆さん、これからの新しいステージでは、さまざまな挑戦が待っています。時には困難にぶつかることもあるでしょう。しかし、皆さんがこの学校でつちかった知識や経験、そして仲間との絆を大切に、自信を持って前に進んでいってください。

最後に、卒業生の皆さんの未来が明るく、希望に満ちたものであることを心より願っております。これらの活躍を期待しています。

ご卒業まことに
おめでとうございます。



卒業担任からのメッセージ

1組担任 松本 大誠



3年1組卒業生31名の皆さん、卒業おめでとう。また、保護者の皆さん、3年間お疲れ様でした。

皆さんにおかれましては18年に及ぶ子育ての一区切り大変お疲れ様でした。担任として、今持てる力は出しつつも自問自答を繰り返して、日々苦戦したのが本音です。おそらく保護者の皆さんにおいても同じような気持ちではないでしょうか？なんでこれぐらいできないの？わからないの？このフリーズがいつも頭にあり、解決できない自分にも苛立ち、私自身も小学校2年の娘がいいますが親となつてみてなんとなく親の気持ちもわかつてきました。

さて、2年間のクラスでしたが、今こうやって振り返っても自分としては満足の得られるクラス運営ではありませんでした。でも、その感覚で良いと思っています。人は満足をしてしまうとそこで思考はストップしてしまうと思うからです。クラスのみんなにも覚えておいてほしいことです。満足で終わることは常になくということ。もっと簡単にいうと、もしそのときに満足をしても生きている以上、更なる満足を求めることがあるべき姿だと思っ

ています。少し難しい話をしましたかね？おそらく、私の教員人生でこれだけ馴れ馴れしく「友達」のように接してくる生徒はこの先はないと思っています。と思うとなんか寂しいかな：せつかく友達みたいになれたのだから、君たちが大人になったとき、昔話に花を咲かせる会をぜひやりましょう。それまで命を大切に健康に留意しながら事故や事件に巻き込まれないよう元気でいてください。心より卒業おめでとう！

2組担任 市川 瑞葵



保護者の皆様、お子様のご卒業、心よりお祝い申し上げます。

この三年間をなんとか乗り越えて、この卒業の日を迎えることができました。本当にありがとうございます。

初めての担任、この3年間で私がずっと考えていたことは、自分は生徒たちにとつてどういう大人でいるべきか？ということでした。どういう大人がそばに居ることが生徒たちの成長の助けになるのか、常に自問自答する日々でした。伝えたいことを上手く伝えきれずに苦しい思いをすることも沢山ありました。それでも保護者の皆様が生徒たちから一番そばで支えていてくれたからこそ、私も全力で生徒たちと向き合うことができたと思っています。

3年2組のみんなには数年後、今より大人になったときにこの問いの答えを聞いてみたいと思います。いつもみんなに元気を貰った3年間でした。笑っているときも怒っていたときもいつもみんなと一緒でした。少しは一緒に成長できたかなとも思っています。でも、私が担任としてみんなと関わることができたのはここで終わります。これからはい



れぞれの人生を歩んでいくことを願っています。3年間ありがとうございました。

3組担任 佐川 裕一



保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。そして、3年間お疲れ様でした。

10回目の卒業担任として、3年前に1年3組を受け持ち、クラス替えを経て現在に至ります。中学3年生（最高学年）から高校1年生になり、色々な中学校から入学してきた生徒が混じり合い、お互い牽制しながら虚勢を張って高校デビューした生徒や、中学校とは環境を変えて心機一転、高校で急成長を遂げた生徒。クラス替えをして、また人間関係の構築で悩む生徒。高校生活に耐えられなくて辞めていく生徒。

高校とは「忍耐力」をつける場所だと毎回生徒に話しています。横の繋がりが、部活等での縦の繋がりが、教員などの大人との繋がりが、理不尽なことがあっても、いったん受け止めてどうすれば解決できるかを模索する場です。その際、担任・保護者・友達などに相談しながら前に進むしかないのです。これは、卒業後も同じです。ただ違うのは、卒業後は、担任や教員、高校時代の友達がすぐそばにいないということです。自分で今までの過去の経験を元に立ち向かうしかないのです。

これから幾多の困難が待ち受けていることが誰かが分かっていることで、分かっているからこそ、どうせ立ち向かうなら楽しくポジティブに立ち向かしてほしいものです。人は弱い生き物かもしれないませんが、58年生きて分かったことは、『人は思っている以上に弱い。むしろ経験を積めば積むほど強くなる』と信じています。

最後に、過去9回の卒業生にも同じことを言っていますが、10回目の卒業生にも同じ言葉を贈って締めたいと思います。いかなる理由があっても『私より先に死なないでください』私が悲しむから。

「高校3年間で振り返って」

3 学年主任 松 本 大 誠



第40期卒業生の皆さん、「卒業おめでとう」振り返ってみると長かったようで短い3年間だったのではないかと思います。無事に卒業証書を手にした気持ちはどうでしょうか？さて、3名の担任の代表としてこの場を借りて感じたことを振り返りたいと思います。おそらく君たちに向けて伝えることはこの場が最後になると思いますので、是非、最後まで読んでもらえたら幸いです。

令和4年4月、君たちは東豊高校への入学が許可されました。当時は3クラス定員の120名でのスタート。担任団も「どのような生徒に育てていくか」という目的意識を持ち、日々を過ごしてきました。しかし、そこはやはり一筋縄ではない状況が毎日毎日続く。40期卒業生は94名ですから3年間で26名の生徒が何らかの理由で進路変更を余儀なくされました。現代の社会では個性や自主性などが叫ばれており、必ずしもこの東豊高校を卒業することが正しい選択ではないと感じ進路を変更した者もいました。しかし、個性や自主性をはき違えている者もたくさんいたと思っています。それは一歩間違えると「わがまま」や「自分勝手」になるからです。これから先はそれぞれ別の道を進むことになります。その中には必ず自分の思うような出来事で

はないことがたくさん起こるはずですが、悲しいこと、辛いことが必ずある。でもそういった環境下でも「逃げずに諦めずに進んでほしい」ということを最後に伝えさせてもらいます。人間って習慣が日常になっていくものだから、それが良くも悪くも「クセ」になるものだから十分に気をつけてほしい。ありきたりだけでも一つひとつ目の前のことを乗り越えていってほしい、そう思っています。

保護者の皆さま、お子さまのご卒業おめでとうございます。3名の担任団、至らなかつた部分もあつたかと思いますが、今ある力を3年間注いだつもりです。そして、多くの生徒たちが成長したことを実感しています。生徒それぞれが新天地にて活躍し、豊かな人生を歩んでいけるよう心より願っております。



「本物のあいさつ」を目指して

生徒指導部長 笠 井 強



早いもので東豊高校に赴任して十一年が経ちました。その間、毎年繰り返される事があります。それは、入学直後はほとんどの生徒が元気に挨拶をしてくれるのに、日が経つにつれて挨拶が下手くそになると言うことです。僕が挨拶しても、返事をしてくれないとか、声を掛けても振り向いてくれない生徒も中には出てくるんです。初めは、きちんと挨拶してくれてたのに、どうしてできなくなるんだろうってずっと思っていました。それで、出た答えがあります。それは、僕に問題があつたんです。僕は、それまで「挨拶のやり方」だけを教えていただけだったんです……。

東豊に来る前の学校でこんなことがありました。ある部の生徒全員が、いつも廊下で会うたびに大きな声で、しかもその場に立ち止まって気を付けの姿勢で挨拶をしてくれてました。でも、引退した翌日から別人のように誰もしなくなるんです。今考えると、顧問の先生から「挨拶をしろ」とただ言われて、その挨拶をする理由を理解してなかつたんじゃないかと思っています。だから、「挨拶の心」を教えなければならぬって思うようになりました。「挨拶の心」を理解していれば、どんなに挨拶は上達するはずなんです。少なくとも「昨日より今日の方ができなくなる」なんてことはないはずなんです。やり方だけ教えると、「その先生が見ていないところではやらない」とか、「めんどうくさい」ということになるん

です。

きつとみんなは幼い頃、大きな声で元気に挨拶していたと思います。ところが、中学、高校と成長するにつれて挨拶ができなくなる人って多いですよ。普通、何事も成長するにつれてうまくなるのが普通です。しかし、なぜか挨拶だけは、下手になっっていくんです。そこで、僕の一つの答えとして、まず「挨拶が大事」じゃなくて「挨拶が大事だ」と思うその心が大事」なんだって思いました。それが僕がみんなに伝える第一歩だと思いました。「挨拶って大事だよなあ」と思う心を持っていたら、挨拶ができなくなるなんてことは、絶対にありません。だから、ぜひみんなが大事だと思う理由をそれぞれ見つけて、その心をずっと持ち続けてほしいと思っています。

最後に、卒業生の皆さん、4月から新たなステージが始まります。「挨拶って大事だよなあ」って思いながら、初めて会うすべての人に気持ちのいい最高の挨拶を実践してみてください。そうすれば、いいスタートが切れるはずです。卒業、本当におめでとう！



これからを生きる皆さんへ

教務部長 山 崎 潤



保護者の皆様、三年間お子様のサポートありがとうございました。東豊高校で過ごした三年間、たくましく育ったお子様の成長については保護者の方々が重々感じていることと思います。しかし彼らはまだまだ途上で、今後保護者の方々の支えが必要です。今しばらくお付き合い願えればと思います。

それぞれの進路でそれぞれの道を歩んでいく中で、大小必ずトラブルは起きるものです。経験値の少ない彼らは思い悩む事と思います。そんなときはそっとそばに寄り添って時には温かく見守り、時には助言するなどお力添えください。今後もお子様の健康と成長を願っています。長い間大変お世話になりました。

そして、卒業生の皆さん、三年間の高校生活お疲れ様でした。この三年間で勉強以外にも人との関わり方など多くを学んだことと思います。その学びは今後も大切になります。進学・就職それぞれの道で成すべき事をしっかりと成し、魅力ある人へと成長することを願います。

また、若い力で地域や社会を支えてほしいと思います。もちろん理不尽なことも経験するでしょう。しかし、真面目に一生懸命に健康に気をつけながら明るい明日を生きしていきたいでしょう。

やる気のある人、頑張る人を社会は応援します。



四十期生の進路について

進路指導部長 新 居 大 輔



四十期生の皆さん、卒業おめでとうございます。本当に大変な三年間だったと思います。言葉では言い尽くせない様々な感情や経験があったことでしょう。今後はぜひ、それらを言葉にして、伝えられるようになってほしいと願うのです。

先日北海道新聞に、成人の日に関連して「Z世代のリアル」と題する記事が掲載されました。Z世代の傾向として「自分らしさを出したいけど、目立ちたくない」という感覚がある、との文章でした。また、この世代の若者の言葉として「失敗が許されない風潮を感じる」とも述べられていました。

今年度三年生と一緒に進路活動をしていて、上記と同じような感覚を、私も強く感じました。他の生徒と同じようには活動したい。一人では活動しにくい。合格したいけれど、目立つのは避けたい。当たって砕けるのも避けたい。できる限り省エネでやりたい。苦労は少なくしたい。そのような感覚です。

それで進路が決まればいいのですが、現実にはそう行きませんでしたね。毎日遅くまで残って勉強していた生徒。面接練習のフィードバックを念入りにしていた生徒。オープンキャンパスや職場見学にたくさん参加した生徒。ちよつと背伸びした目標に挑戦した生徒。そのような皆さんが進路を決めていったのです。

反対に、努力や苦労を避けて、成績や欠席に関係して進路を決めることができなかった皆さんがいたことも、一方で確かにありました。その点を是正しきれなかったことは、大きな反省点でもあります。

先ほどの記事で、金沢大学の金間大介教授が以下のような助言をくれています。「大

人が武勇伝を語るのではなく、挑戦し、失敗し、復活する姿を示すことで、若者の心は動く」と。人間は、言葉を用いて世界を切り取ります。言葉を用いて気持ちを表現します。皆さんの経験をぜひ言葉で表現してください。次の世代に伝えてください。



40 期生の進路決定状況

	合計	内 訳	
進学	49	私立四大 20 専門学校 27	私立短大 1 看護学校 1
就職	19	民間企業 19	

令和7（2025）年2月7日現在

編集後記

今回、卒業式特集として学校だより第120号をお届けします。

さて、40期生の皆さんは、コロナ感染がおさまらない年に入学式を行い、その後はコロナが5類に移行したとはいえ、対策等に気の抜けなかった日常を過ごす毎日だったかもしれません。

そんな中でも、印象に残ったのが、昨年の6～7月の高野連支部大会での本校を含めた合同チームの快進撃と、そして最上級生として応援をリードした40期生たちの姿でした。また、学校祭でのクラス対抗のステージでは、趣向を凝らした40期生の発表は目を見張るものであったと思います。

人生で最も多感な高校三年間を過ごし、旅立っていく40期卒業生諸君が、次のステージで活躍してくれることを祈念しています。

